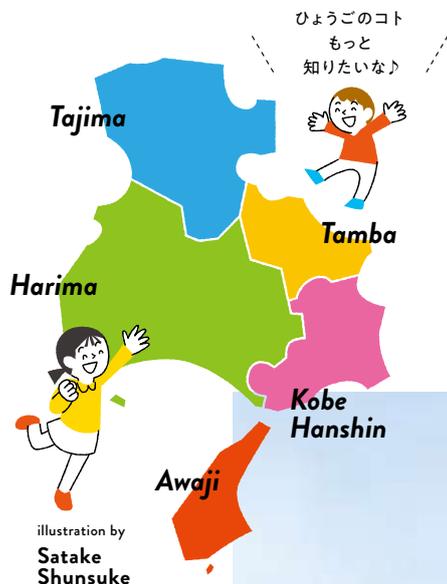


ひょうごの いいところ、 見てみよう

vol. **8**

ひょうご
地域創生
通信

MAR. 2023



INDEX

スペシャルインタビュー

貴島 明日香さん
サタケ シュンスケさん

- 地域創生戦略会議の田林信哉座長に聞く！
これからの兵庫県に期待すること
- [住む] 古民家再生、空き家活用
- ひょうごフィールドパビリオン
地域の魅力を現地で体感！
- [学ぶ] 先進的な理数教育を実践
- [働く] IT技術で地域の課題を解決
- 「HYOGO eスポーツフェスタ in 城崎温泉」大会レポート

SPECIAL INTER

スペシャルインタビュー

今も神戸で暮らす 友達がたくさんいます

高校在学中からモデルの仕事をした貴島明日香さん。上京してからも仕事で兵庫に帰る機会が多いのだとか。

「先日、日帰りの仕事で神戸に帰ってきた時も新神戸駅まで母がお弁当を作って持ってきてくれました。友達も地元にいる子が多いんです。大阪で働いている子も、住んでいるのは神戸なので、こちらに来るたびに会っています」

東京に出たからこそ、改めて地元の魅力が見えてきたという貴島さん。

「住んでいるときはあまり実感することは

なかったのですが、海と山がすごく近くにあって、その中におしゃれな街もあって、すごくいい場所だなと改めて思いました。あと私が住んでいた長田には、個人で経営されているパン屋さんがたくさんあって、そこも魅力的です。『トライやる・ウィーク』という職場体験の授業でもパン屋さんに伺いました」

中学・高校生のときは三宮でプリクラを撮ったり、服を買ったり。

「私が通っていた舞子高校には環境防災科というのがあって、私は普通科だったんですけど、私が入学した年に東日本大震災が3月にあって、環境防災科の生徒はボランティアで東北に行って、すごい経験だった

という話を聞きました。高校時代は、ふらっと須磨の海岸に行って、明石海峡大橋を眺めながら、友達と自販機でカフェオレを買ってずっと喋っていましたね」

兵庫県は広くて 場所ごとの魅力がたくさん

県内の他の地域へは、遠足や家族旅行で訪れていたという貴島さん。

「小学生の頃は東条湖おもちゃ王国は毎週行きたいくらい楽しかった！あと家族で行った有馬温泉はすごく思い出に残っていますね。雪が積もっていて、県内でもこんなに景色が違うんだと思いました。遠足では神戸布引ハーブ園、須磨浦公園といろいろ行

Kijima Asuka

神戸出身

モデル・女優

貴島 明日香さん

「東京に出て改めて
兵庫の良さを実感
地元を誇りに思います」



VIEW

兵庫県で子ども時代を過ごし、県外に出て活躍するモデル・女優の 貴島明日香さん。
兵庫県で育ち、県内で仕事をし子育てをするイラストレーターのサタケシュンスケさん。
それぞれの分野で活躍するお二人に、兵庫県の暮らしやすさやその魅力を伺いました。

きましたね。姫路はゆかたまつりの印象。淡路島は高校入ってすぐの合宿や家族旅行で。城崎温泉は、事務所の旅行でおそばを食べたり温泉に入ったり。日本海側と瀬戸内海側で同じ兵庫県でも全然違って、その分の魅力はすごくたくさんありますね。広いからまだ知らないこともたくさんあって、場所によってそれぞれ違った魅力がありますね」

将来、子育てするなら兵庫に帰りたいという思いもあるのだとか。

「私は19歳で東京に出てきたので、子育てのしやすさという観点で地元を見たことはなかったのですが、親も友達も、住みやすい子育てしやすいと話しています。一生をそこで過ごせる街だと思いますね」



[PROFILE]

きじま あすか ©1996年2月15日、兵庫県神戸市出身。高校時代からモデル活動を始め、卒業後東京へ。2017年～2022年の5年間、日本テレビ系「ZIP!」で7代目お天気キャスターを務め、人気を博す。2018年9月より「non・no」専属モデルに。2022年8月からABEMAの公式アナウンサーに就任。自身のyoutubeチャンネル「あすかさんち。」やゲーム実況配信サービスOPENREC.tvでは、ゲーム好きとしての素顔も見られる。

今冊子の
イラストを
担当しました！



「楽しそうに働いている姿を
子どもには見てもらいたいです」



神戸の自宅の近くに事務所を構え、出版や広告イラスト、キャラクターデザインの仕事をしているサタケさん。「15年くらい前までは、実際に会わないとできない仕事もあったり、デジタル対応もできていなかったりと、ハンデを感じることもありました。今はどこに住んでいても関係ないと感じています。一方で、神戸市や兵庫県など、地域ならではのお仕事もいただくようになりました」

子どもが生まれてから、学習教材など子ども向けの仕事が増えたのだそう。「わかりやすく増えたのは、赤ちゃんを月齢ごとに描き分ける仕事をしてから。自分が育児に携わらないと、この数ヶ月の違いはわからなかったと思います」。

子どもの頃から絵を描くのが好きだったというサタケさん。「口下手なので、休み時間に絵を描くことで、話しかけてもらうきっかけを作っていました。絵は僕にとってコミュニケーションツールですね。人が喜んでくれるから描きたいと思う気持ちは今の仕事にそのまま繋がっている。「うちの子どもたちもお絵描きが好きで、紙と鉛筆さえあればずっと描いていますね。子どもたちには気楽に楽しそうに働いている姿を見てもらいたいですね」。

Satake Shunsuke

神戸在住

イラストレーター

サタケシュンスケさん

[PROFILE]

さたけ しゅんすけ ©1981年大阪府枚方市生まれ。兵庫県神戸市在住。2007年に広告制作会社を経て独立。2021年、法人化し、株式会社ひととえ代表取締役役に就任。動物や人物をモチーフにデフォルメし表現。代表作にNHK「おかあさんといっしょガンバラッパ★ガンバル〜ン」ベネッセ こどもちゃれんじ「おしゃべりシュッポ」などがある。

地域を元気に！ ひょうごの取り組み紹介します

兵庫県では、学びや仕事、移住支援など、地域で暮らす人々に向けて
多様な支援を行なっています。どんな制度があってどんな人たちが活用しているのでしょうか。
さまざまな取り組みについて紹介します。

<p>◇ P. 6-7</p> <h2>学ぶ</h2> <p>Learn</p> <hr/> <p>SSHと サイエンスフェア</p> 	<p>◇ P. 8</p> <h2>働く</h2> <p>Work</p> <hr/> <p>ひょうご TECHイノベーション プロジェクト</p> 	<p>◇ P. 9</p> <h2>住む</h2> <p>Live</p> <hr/> <p>移住支援制度</p> 
<p>◇ P. 10-12</p> <h2>SDGs</h2> <p>ひょうごフィールドパビリオン</p> 		
<p>◇ P. 13</p> <h2>eスポーツ</h2> <p>HYOGO eスポーツフェスタ in 城崎温泉</p> 	<p>◇ P. 14-15</p> <h2>第二期 兵庫県地域創生戦略 (2020~2024)の全体像</h2>	



学びや仕事、暮らしについて、現在どんな取り組みが行われているのでしょうか。貴島さんや子どもたちと一緒に見ていきましょう。



ひょうごで暮らす
人たちに
会いに行きましょう♪



地域創生戦略会議の田林信哉座長に聞く！ これからの兵庫県に 期待すること

2020年から始まった第二期「地域創生戦略」。中間年となる2022年度は計画の見直しが行われました。この2022年度地域創生戦略会議の座長に選ばれたのが、Satoyakuba代表田林信哉さん。田林さんにこれからの地域に期待することやそのポテンシャルについて伺いました。



撮影協力 / BREATH&ROY



現場でまちづくりをしたいと 総務省を退職

総務省で15年ほど地方自治の制度設計の仕事をしていた田林さんは、2020年に家族で丹波篠山市に移住する。

「南相馬で副市長をしていたときに、行政や民間、さまざまなセクションの人が力を合わせて街をつくるのが大事と感じました。総務省にいるときは人の顔の見えないところで大きな政策を作って利害関係を調整している感覚でしたが、今は地域の本質的なところに、自分の言葉や考え方でぶつかっていけるので、手応えを感じています」

現在は、丹波焼の窯元50軒でつくる丹波立杭陶磁器協同組合と一緒に産地の活性化に携わる。

「過去から受け継がれてきたものを将来に受け継ぐお手伝いができればと。丹波焼は平安時代の終わりから800年続く地場産業。約50軒の窯元さんとコミュニケーションを取って、想いを引き出しながら企画を進めています。自分は外から来てまだ何もわかっていないので、こちらの提案を押し付けるのではなく、まずは話を伺うことを大事にしています」

今そこにいる人が 幸せに暮らせる場所であること

総務省退職後、丹波篠山でまちづくりの仕事をしていた田林さんに県が注目し、地域創生戦略会議の委員として声がかかった。社会のトレンドや地域の状況を事務局がデータにして可視化。19人の委員の意見を取りまとめ戦略の中に反映する作業を事務局と連携して進めていった。



丹波焼の郷立杭で登り窯の焼成を見学。丹波立杭陶磁器協同組合の市野達也理事長と。

「コロナ禍になって孤独・孤立の問題や地方への移住の流れというものが出てきた上で、県としてどう取り組むべきか。委員の皆さんの意見すべてを採用するのは難しいので、エッセンスをいかに取り入れて実効性のある戦略が作れるか考えました」

人口増加を目指す一方、子どもを持たないという選択をする人たちなど多様なライフスタイルを尊重し包摂した内容を目指した。

「今そこにいる人がちゃんと幸せな暮らしを営める状態であれば、おのずと人が移ってくる。新しいチャレンジをする人がいれば応援し、若い世代には寛容に接する。大事なのは、その地域の人たちのマインド。兵庫はその傾向があると思います」

兵庫県の強みは五国それぞれの豊かな歴史や地域資源を持つことだと田林さん。

「昔からあるものを自分たちのアイデンティティとして大事にしていくということが力になると思います。それぞれの良さを生かしつつ、県全体で目指す方向を共有しながら、地域が元気になるような取り組みを進めていけるといいですね」

[PROFILE]

田林信哉さん

たばやし しんや◎1983年和歌山県生まれ。2005年に総務省入省後、地方自治の行財政制度の企画立案に従事する。2016～2017年、福島県南相馬市で副市長として災害復興に従事。2020年に総務省を退職。丹波篠山市に移住し、株式会社NOTEで歴史や文化を軸にしたエリアマネジメントの仕事に携わる。2021年に独立し、プランナーや地域づくりコーディネートの仕事を手掛ける。

ひょうごで
学ぶ
Learn

先進的な理数教育を実践

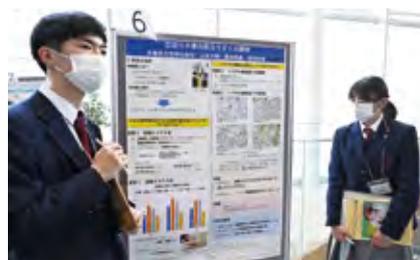
好奇心から探究心へ 生きる力を育む学び



兵庫県には、全国に誇れる学びがあります。全国から注目されるSTEAM教育をはじめ、全国有数の指定校数を持つSSHなどの特色ある学びが充実しています。その取り組みのひとつであるSSH校の発表・交流の場である「サイエンスフェア」に足を運び、兵庫の理数教育について取材しました。

「第15回サイエンスフェア in 兵庫」開催レポート

2023年1月29日、神戸ポートアイランドの4会場で「第15回サイエンスフェア in 兵庫」が開催されました。同イベントはSSH(スーパーサイエンスハイスクール)指定校をはじめ、県内27校の高校生たちが参加。当日は、高校と大学・協力研究機関・企業による口頭発表、ポスター発表が行われました。さらに交流の場としてサイエンスカフェも開催。研究生活について高校生が大学生や大学院生に気軽に相談できる貴重な機会となりました。



ポスター発表の様子

高校生の発表内容

参加全27校のうち3校の口頭発表を紹介します。

化学

〈 加古川東高校 〉

『さばこん』～砂漠の砂でコンクリートを作る～

山下煌生さん、高原信さん、射場暎果さん



地 球の砂漠化問題とコンクリート用の砂が不足している問題の2点に着目。砂漠の砂は粒子が小さくコンクリートとしては強度不足で建築材には向いていないため、先行研究を参照しつつ、砂漠の砂でも従来のコンクリート強度が出せないか実験。

もともと化学分野に興味があったが、最初はテーマが見つからずネットで『いまだ解明されていない科学の謎』などで調べたという。実際に砂漠の砂を取り寄せ、実験を繰り返した。今後は研究内容を英語論文にもまとめる。「自分たちで課題を見つけてアプローチして発表した経験は大学での研究の準備にもなった。さらに設備が整った環境で学ぶことが今からとても楽しみです」(射場さん)

Column

SSHとは

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)とは将来の国際的な科学技術人材を育てるため、先進的な理数教育を実施する学校として国が指定。大学との共同研究、国際性を育むための取り組みを推進している。兵庫県内では15校が指定され、これは東京都の16校に次ぐ全国屈指の指定数となる。

「理数教育」が 充実している兵庫県

兵庫県の高大連携について助言されている神戸大学の伊藤教授に兵庫の理数教育について伺いました。「県の規模からしても、15というSSHの学校数はかなり充実していると思います。様々なノウハウの蓄積や人材発掘を行い、ネットワークの中で活発な意見や情報交換を行うことが重要。『咲いてく』事業

神戸大学 人間発達環境学研究所
伊藤真之教授

(高校・大学・企業・研究機関が連携して科学技術人材を育成する兵庫県独自の事業)の長年の蓄積がある兵庫県はそういった面でも大変期待できます。高校で『探究』がカリキュラム展開されるようになり、期待の一方、課題も。それぞれに応じたふさわしい支援のあり方が重要になってくると思います。

物理



〈 神戸高校 〉

カメラ搭載の自作ロケットの設計

吉井栞さん、瀧口空さん、小澤葵さん、津高秀明さん



火 薬を使った模型のロケットにカメラを搭載して打ち上げ、神戸高校を上空から撮影することを目標にした。火薬を扱うライセンスは講習を受けてメンバー全員が取得。3Dプリンターでパーツを作成し、機体の軽量化のためカメラも変更。結果126メートルの高度を記録し撮影にも成功した。

空に関して興味がある4人。打ち上げのライセンスをとって昨年の6月から取り組み始め、夏休み中も学校に来て話し合ったそう。指導教員の橋本先生は資料探しの手伝いや、ロケットを飛ばす際のグラウンド使用の交渉などでサポート。「自分たちで計画して研究して、それを人前で発表する機会を得られた。これは将来に役立つと思います」(小澤さん)

生物



〈 豊岡高校 〉

人が野生哺乳類に与える影響

井上斗弥さん、岸本大智さん、高階政希さん、加谷太一さん



都 市開発や森林伐採が増える中で、人の手は自然にどんな影響を及ぼしているのか。学校の裏にある神武山(標高49メートル)の哺乳類の生息を調べてその影響や人と動物の共存の方法を探る。

生物分野に興味あるメンバー。「共存」を「互いにより影響を及ぼす」と「互いに影響をしあわない」と定義し考察した。2ヶ月間の予備調査後、7月~12月で研究調査を実施。「テストと違って、実験してデータから結論を導き出す。先生が教えてくれるわけでもない。過去の先輩が残した資料も用いた。思考力がすごく鍛えられた」と振り返る。SSHは予算が柔軟に使えるので、高校のある但馬から離れた大学で研修を受けるときに使用できるのも強みだ。

科学を志す仲間に出会える

3年ぶりの開催となった「サイエンスフェア」。一堂に会して情報共有ができる場があることで理数教育の底上げとなる。「違う学校で科学を志す仲間がどんな研究をしているのかわかります。受験教育を行わずとも探究・実験しながらおのずと力がついていく。兵庫では理数教育は一部のエリート層向けのものではなく、広く門戸を開きみんなで取り組んでいます」(新谷さん)。「他府県だとSSHは都市部に集中し、そこに行かないとすぐれた教育が受けられないことも多いですが、兵庫では県内広域にSSHがバランスよく点在しているのも強

みです」(西田さん)。社会に出ると求められるのが「ベターな答えをみんなで見つける」こと。探究の姿勢は理数だけではなく、人生において必要な「生きる力」につながります。

兵庫「咲いテク」運営指導委員会



委員長
新谷浩一さん



推進委員長
西田利也さん

高校生の「探究」を
さまざまな面から
サポート!



ひょうごで
働く

Work

IT技術で地域の課題を解決

子どもが安心できる 獣害対策の実現へ

県内の起業家や事業者を支援しつつ、地域課題の解決を
公民連携で行う試み「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」が
2022年度に行われました。超音波技術を使って
獣害対策を行っている会社の例をご紹介します。



左) イーマキーナ代表の藤井誠さん。害獣忌避装置を手に。
上) 新温泉町の学校では鹿の被害に悩まされていた。

Column



ひょうごTECH イノベーションプロジェクトとは？

主に県内の起業家や事業者が有する情報通信技術を中心に、ものづくりや建築・土木等の工業技術などを活用し、その課題解決を図っていくプロジェクト。兵庫県内から集めた6つの地域課題、行政課題に対して、技術やノウハウを持った民間事業者から解決策を広く募集した。

超音波で学校に進入する 鹿を撃退

神戸市にあるイーマキーナは電子機器を製造・販売する会社。代表の藤井さんはITと製造、両方の現場を経験してきた。「ITとものづくりの文化は異なり、お互いの知見を入れようとしないと感じていました。だからこそ私たちはそれを合わせて事業を行うことにしました」

前職から引き継ぐ形で、超音波を使ってネズミなどの害獣を追い払う機器を製造・販売。周波数や出力ワット数などはシングルボードコンピューターで制御している。イーマキーナの機器が対象にしていたのは主にネズミで、鹿や猪の対策には使われていなかった。鹿や猪には一般的に電気柵が用いられることが多く、超音波は効果がな

いと思われていたのだ。

今回、「ひょうごTECHイノベーションプロジェクト」を知り、「電気柵に頼らない対策をしたい」という募集要項を目にし、「これならできる」と手を挙げ採用された。

課題の地域は新温泉町の学校。グラウンドに鹿が侵入し、平均で1日約1kgのフンを撒き散らす。被害の多い時期は、毎日2人で1時間掃除の時間を取られていた。

イーマキーナでは、従来の機器を屋外でも設置できるよう、ステンレスでカバーを制作。雨の多い新温泉町に対応できるようにした。検証は10月から開始。半減が目標だったが、設置から1週間で、フンの量が1日53gまで激減。4カ月継続した結果、1日23gに。「想像以上の結果でした」と藤井さん。この際にゼロにしようと取り組みを続けている。

「行政の仕事をするためには、入札のモデルしかないと思っていましたが、一般公募をして行政と仕事ができるという試みは新しい」と藤井さん。「週に1回、県と新温泉町の教育委員会とミーティングを重ねていますが、こんなに時間を取ってくれるのかというのも感動しました」。公民連携で、地域の課題解決に取り組んでいる。

今後の展開が
楽しみです

